



和牛少年隊の授業風景



会場予定の牧園町農大跡地

議会のこれまで

前回大会の来場者数は約40万人。これまでにない規模の大会です。霧島市議会では、会場周辺の交通渋滞解消対策、出品牛の糞尿対策、参加者の宿泊対策など、和牛能力共進会に向けてさまざまな議論と提案をしてみました。令和4年度当初予算では、「第12回全国和牛能力共進会開催」関連で、4,472万9千円を予算化しています。主なものは、
全共おもてなし協議会（補助金）2,252万4千円
優良牛導入（保留牛補助金）1頭20万円
候補牛への優良粗飼料配布（育成牛1日当たり3kg、成牛1日当たり5kg）。

そのほか、一般質問では、
・県代表牛に対する支援策と取組みについて（令和元年6月議会、山田議員、令和2年12月議会、厚地議員）
・全共における宿泊・交通機関について（令和3年12月議

会、平原議員）

・全共の概要と本市の受け入れ体制について（令和3年12月議会、前田議員）
・全共おもてなし協議会の観光客誘致の取組みについて（令和4年6月議会、前田議員）
・畜産農家への飼料などの支援策について（令和4年6月議会、前川原議員）
・全共開催の市民への認知度と食することができるとする飲食店の準備について（令和4年6月議会、平原議員）
など取り上げてきました。

和牛のまち「福山」

霧島市福山町は合併以前より、和牛の生産が盛んです。122戸の農家で3,238頭数を飼養し、和牛の産地となっています。（令和3年度霧島市統計書）

霧島市福山町の藤山幹さんは、和牛繁殖農家と家畜人工授精師として活躍する傍ら、動画やラジオなどで畜

活躍！「和牛少年隊」

牧之原小学校では、5年生になると「和牛少年隊」を結団し、和牛の総合的な学習に取り組んでいます。

和牛とはどんな特徴があつて、どんな育て方をするのかを、映像や本から学んでいきます。

6月の末頃に結団式が行われ、和牛少年隊の証の帽子が授与されます。

結団式の後は、畜産農家を訪問し、餌やり体験をしたり、牛に触れたり、いろいろなことを農家の方に教えてもらおうです。

農家の方が丹精込めて育てた牛が出荷される秋には、競り市の見学にも行きます。

今年の5年生は24人で、2班に分かれて体験学習に行く予定になっています。

小学生の代表として、今回の全国和牛能力共進会で学習の成果を発表します。

発表予定者の瀨口りんさんと古園まりあさんは、「和牛について、たくさんしたこと

を知りたいと思います。」「まだ和牛のことをよく知らないなので、この学習を通して学んでいきたい。」と意気込みを語ってくれました。

担任の村部先生は、「コロナ禍で、餌代の高騰など、農家の方は大変な苦労をされながら頑張っています。そういった部分を、子どもたちと一緒に学びながら、それを発表につなげて、多くの方に見ていただきたいです。」と語られました。

体験学習では、和牛の試食もあるそうです。私たちの口に入るまで、多くの努力があることを子どもたちは生きた学習で学んでいます。

牧之原小学校の子どもたちの頑張りを心から応援します。

産についての情報を発信しています。「和牛オリンピック」での優勝は、世界一同じ価値があります。地元で開催される大会の連覇を目指して、農家は長い期間かけ、愛情持って牛を育てています。鹿児島ブランドを確立し、畜産を通して人の流れと経済効果を高め、地域を元気にしたいですね。」と意気込みを語っています。



体験学習の様子



牧之原小学校5年 瀨口りんさん（左）と古園まりあさん（右）